

2018年度の資金運用結果について

2018年度の世界経済は、前年度に引き続き拡大を続けたものの、米国の金融政策の転換や米中貿易摩擦、欧州景気の失速などを背景に前年度より拡大テンポは減速しました。こうしたなか、日本経済も緩やかな成長を持続しましたが、国内物価が緩慢な上昇にとどまったことから、長期金利は依然超低金利を脱することができない状況で、為替相場も概ね1ドル=110円を挟んでの狭いレンジ内での推移となる投資環境のもとでの資金運用となりました。

このような投資環境において、本学では「2018年度資金運用方針」に基づき資金運用に臨み、2018年度の運用収益は約6.0億円（利回りは約1.4%）となりました。

以下に2018年度の運用結果について簡単にご報告いたします。

1 国内債券

国内債券については、将来の金利上昇を考慮しつつ、中期ゾーン（期間3～5年）でラダー型ポートフォリオ（注1）を構築することを基本とし、一部利回り確保の観点から長期債を購入しました。また、前年度に引き続きグリーンボンド（環境債：注2）投資やESG投資（注3）に積極的に取り組み、「投資リターンの向上」のみならず「社会的リターンの向上」を目指しました。

国内債券による運用収益は、約2.0億円（利回り約0.7%）となりました。

（注1）各償還年限の割合が均等となる銘柄から構成されるポートフォリオ

（注2）温暖化対策や環境プロジェクトなど環境保全に用途を限定した債券

（注3）環境（Environment）、社会（Social）、企業統治（Governance）に配慮している企業等を重視・選別して行う投資手法

2 外国債券

外国債券については、将来の為替動向を考慮しつつ、中・長期ゾーン（期間5～10年）でのラダー型ポートフォリオを構築する購入を計画していましたが、為替相場が基準とする水準に達しなかったため新規購入を見送りました。

外国債券による運用収益は、償還による為替差益を含めて約3.4億円（利回り約4.2%）となりました。

3 国内株式

国内株式による運用収益は、約0.2億円（利回り約4.9%）となりました。

4 その他

保有している仕組債等による運用収益は、約0.4億円（利回り約1.0%）となりました。

以上